

一般社団法人日本粘土学会 2025 年度第 4 回常務委員会議事録

日 時：2025 年 8 月 16 日（土）13:00～15:00

場 所：国際文献社アカデミーセンター5 階会議室および WEB 会議室

常務委員（16 名）：佐藤努、笹井亮、鈴木正哉、中戸晃之、伊藤健一、岡田友彦、亀島欣一、
渡邊雄二郎、森本和也、佐久間博、小口千明、地下まゆみ、井上紗綾子、
手束聡子

監事（2 名）：高木哲一、志々目正高

委任状（1 名）：横山信吾

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 17 名の過半数 9 名 出席常務委員 16 名で常務委員会の開催は成立

議 題

審議事項

1. 2025 年度事業報告（資料 1）

各担当委員より資料をもとに報告があった。粘土科学横山編集委員長の代わりに笹井常務委員長より、現在の論文等受付数は、2025 年 7 月に 2 編で、受理数は 1 編、審査中は 1 編との報告があった。Clay Science 岡田編集委員長より、2025 年 7 月に第 29 巻を公開し、8 月現在の論文受付は 6 編、うち受理は 3 編であるとの報告があった。第 67 回の粘土科学討論会の中戸実行委員長より、粘土科学にて開催報告を行ったとの報告があった。第 68 回の粘土科学討論会の鈴木実行委員長および渡邊企画実行委員長より、討論会およびシンポジウムの準備状況について説明があった。森本参考粘土試料委員長より、申込件数 22 件、海外から 3 件であり、例年より多かったとの報告があった。佐久間広報委員長より、例年通り HP や X の更新を行っているとの報告があった。亀島渉外委員より、2025 AIPEA Newsletter 57 資料 1 号への掲載を確認し、また、AIPEA の規約変更に関する投票のための会員名簿を 5 月 23 日 に提出したとの報告があった。笹井常務委員長より、2024 年 9 月に学会賞および学術振興賞の表彰式を行ったとの報告があった。また、現在 3 つの研究グループが活動中との報告があった。小口庶務委員より、日本学術会議が来年の秋以降に法人化するとの報告があった。また、学術著作権協会への AI 利用委託が多くの学協会で検討されており、約 650 団体のうち 約 550 団体が AI 利用委託可の返事をしたこと、JpGU については検討中であることが報告された。地下庶務委員より、協賛依頼が 9 件あったとの報告があった。井上庶務委員より、現在の会員数は 329 人との報告があった。

2. 2025 年度会計報告（資料 2）

伊藤会計委員により、資料をもとに会計決算報告があった。高木監査より、2024 年 8 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日までの監査について報告があった。

3. 2026 年度事業計画（資料 3）

各担当委員より資料をもとに説明があった。横山編集委員長の代わりに笹井常務委員長よ

り、例年通り粘土科学を3回発行する予定との説明があった。岡田編集委員長より、例年通り Clay Science を4回発行する予定との説明があった。鈴木実行委員長より第68粘土科学討論会（産業技術総合研究所）の準備および開催スケジュールについて説明があった。亀島実行委員長より、第69回粘土科学討論会（岡山大学）の開催への準備状況について説明があった。渡辺行事企画委員長より、第69回粘土科学討論会でのシンポジウムの準備状況について説明があった。森本参考粘土試料委員長より、例年通り9種類の試料の頒布を行うとの説明があった。佐久間広報委員長より、例年通りの広報活動を行うとの説明があった。亀島渉外委員より、例年の通りの渉外活動を行うとの説明があった。笹井常務委員長より、学会賞および学術振興賞について例年通り募集を行うとの説明があった。笹井常務委員長より、例年通り研究促進の活動を進めるとの説明があった。小口庶務委員、地下庶務委員、井上庶務委員より、例年通りの庶務の活動を行うとの説明があった。笹井常務委員長より、2026年度の理事会および常務委員会のスケジュールについて説明があった。

4. 2026年度予算（資料4）

伊藤会計員より、資料を用いて2026年度予算について説明があった。

5. 2025年度総会議案書(案)の次第(案)（資料5）

笹井常務委員長より、資料を用いて2025年度総会での審議事項（案）と報告事項（案）について説明があった。

6. 2025年度総会の準備・進行等（資料6）

笹井常務委員長より、資料を用いて総会の準備・進行（案）について説明があった。会員の総会への出席確認は庶務と事務局が行い、総会でのパソコンの操作は常務委員長が行うとの説明があった。

7. 2025年度表彰式の進行（資料7）

笹井常務委員長より、資料を用いて表彰式の進行（案）について説明があった。学会賞等の選考報告は白井選考委員長、学術振興賞の選考報告は笹井常務委員長より行ない、準備や送付等は事務局、授賞式の補助は庶務委員が担当するとの説明があった。

8. 第68回粘土科学討論会準備状況について（資料8）

鈴木実行委員長より、準備状況について説明があった。受付開始は9時、総会は11時45分から13時、講演要旨の公開は9月8日との説明があった。また参加者は、懇親会が65名、見学会は14名、討論会は107名との報告があった。

9. その他

伊藤会計委員より、旅費規程の改定についての提案があった。本会用務のための支出として、オンラインBOX会議の使用等についての規定がないため、旅費規程に下記を加える

- ことが提案され、審議の結果、理事会へ上程することとなった。
- ・(旅費等の承認) 第3条 旅費などの支給を希望する者は、事前に常務委員長と会計に申しでる。2 常務委員長は、申し出の可否を判断する。
 - ・(旅費等の計算) 6 移動を伴わない本会の用務の執行に伴う支出については、実費を支給する。」

以上、審議の上、承認された。

報告事項

1. 研究グループの活動報告（資料9）
 笹井常務委員長より、資料を用いて3つの研究グループの活動について報告があった。
2. AIPEA 理事会報告
 佐藤会長より、AIPEA（アイピア）理事会について報告があった。ICC が廃止となり、AIPEA 主催の Clay を2年に1回開催する予定であり、ヨーロッパと非ヨーロッパ系で交互に開催（第一回の2027年はスペイン（マドリッド）、第二回の2029年は中国（成都））することが決まった。2033年に日本主催でClayを開催する場合、2029年までに提案書を提出し、理事会で認められる必要があるとの説明があった。
 今回、AIPEA の役員改選があり、佐藤会長が副会長に選出された。将来、AIPEA 会長が日本から選出されるよう、計画的に進めていけるように活動していくことが望ましいとの説明があった。
3. その他
 - ・森本常務委員より、2026 年度実施予定の選挙の実施体制等に関する問題提起があり、電子投票システムの運用、候補者選考委員、選挙管理委員等の選定に関する前回の経緯等の認識を常務委員会として共有した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

2025 年 8 月 16 日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 笹井 亮 ㊞

監 事 志々目 正高 ㊞

監 事 高 木 哲 一 ㊞